

平成26年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	塩の道コミュニティエリア再生事業
事業主体 (連絡先)	一般社団法人 縁家 0261-22-4018
事業区分	③教育、文化の振興に関する事業 ⑥ア 特色ある観光地づくり
事業タイプ	ソフト・ハード
総事業費	3,145,395円 (うち支援金: 2,153,000円)

事業内容

一昨年「塩の道ちょうじや」としてスタートし、「千国街道・塩の道」の文化を紹介する資料館としての役割だけでなく、様々な文化を通じて地域の住民が集い、交流の場の拠点となるべく事業を行ってきた。

本年度は、コミュニティスペースを屋外にも拡張し、年配の方と子ども、また親子の交流が深められるようなイベント等を企画した他、昨年より行っている地域食材をテーマにした料理講座も開催した。

この他にも、施設の中だけではなく、白馬・小谷方面にも出掛け、千国街道を巡るバスツアーも企画した。



【ちょうじや縁日】

【目標・ねらい】

- ① 郷土食の継承
- ② 地域文化の継承
- ③ 観光振興

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

- ① 千国街道を運ばれてきた「えご草」を使った料理講座を開催。新たな食べ方の提案をする事で注目される食材となった。
- ② 「松崎和紙体験講座」や「民話バスツアー」、「大町民話かるた大会」等も企画。楽しみながら地域の文化を知って頂く機会へと繋がった。
- ③ 講座開催により、観光客にも楽しめる体験メニューが出来、家族連れに楽しんで頂けるようになった。
(木工講座・昔の遊び等)

※本年度の講座・イベント参加者数・・・210名

※自己評価【 B 】

【理由】

講座等の参加者数は、目標120名のところ、210名の参加があったが、入館者数が昨年比87%と目標値に届かなかったため。

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

当初の目的であった、「地域や世代を超えた交流の場を創造する事で人と文化を育む」という点は、着実に成果が出ていると考えている。今後もこのようなスタイルは続けていくが、一方で建物も維持継承していかなければならない。今まで以上に多様な企画を実現させ、様々な交流も生み、さらに大町の観光拠点としての役割も担いながら自立を目指す。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。
「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた
「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある